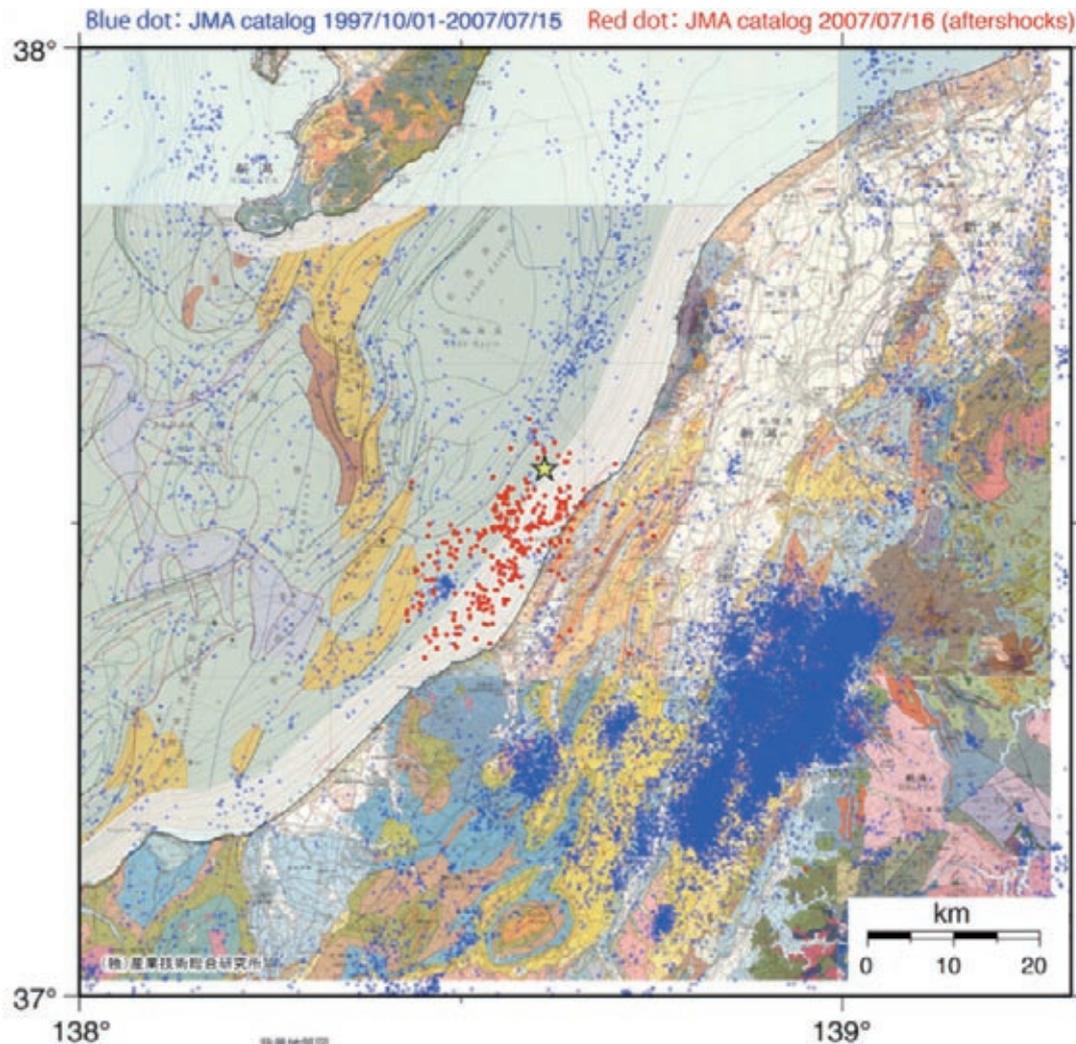


7 - 27 微小地震活動と地質構造, 新潟県中越沖地震震源域との関係

Spatial relation between seismicity and geologic structure in and around the epicentral region of the 2007 Niigata-ken Chuetsu-oki earthquake.

産業技術総合研究所

Geological Survey of Japan, AIST



第1図 地質調査総合センター発行の地質図の上に, 気象庁一元化震源を重ねた. 星印が本震の震央. 青丸が本震前約10年間のすべてマグニチュードの震央分布(40km以浅). 赤丸が本震発生後約15時間の余震分布(暫定解). 一般に, 本震後数時間~1日以内の余震分布が震源断層の拡がりに対応するとされている. したがって, 中越沖地震は微小地震の不活発であった区間(微小地震の空白域)を埋めるように発生したことがわかる. すなわち, 今回の地震は, 星印から北東に向かってのびる NNE-SSW 方向の微小地震活動域南端から破壊が開始し, 南西に伝播したと推定される.

Fig. 1 Background seismicity (blue dots) and one-day aftershocks (red dots) of the Chuetsu-oki earthquake plotted on the geological maps. Earthquake data are from JMA PDF catalog and geological maps are from Geological Survey of Japan. The yellow star indicates the epicenter of the Chuetsu-oki earthquake.

(遠田晋次)